# 於福小だより

令和５年6月30日発行
7月号 於福小学校

**学校教育目標**（大嶺中学校区共通目標）
美祢を語り、夢を語れる地域の担い手の育成と豊かな地域づくりをめざして

## いい塩梅

校長 永 田 直 子

今年は、昨年に比べて約２週間程度早く梅雨入りをしたそうですが、良く使う言葉に「塩梅（あんばい）」という言葉があります。元々この言葉は、梅干を作る過程で、塩の量や漬けておく時間によって梅干の味（うまみ）が大きく違ってくることから塩の使い方に気をつける、そんな戒めの言葉だそうです。

この「塩梅」は、子育てにおいても大きく影響するように思います。料理で言う、塩がきき過ぎた状態では、子どもは型にはまってしまい、自分の思いをのびのびと言えなくなってしまいます。さらにそれが進むと、大人の顔色を伺うようになり、大人が喜ぶようなことを言ったり演じたりします。逆に塩がまったくきいていない状態では、子どもは好き勝手に行動し、次第に統制がとれなくなってしまいます。大人と友だち感覚で喋ったり接したり・・・。

学校でも家庭でも子育ての調味料がどちらかに偏っていないか、時々見直すことが大切だと感じています。学校でも「いい塩梅」の教育で元気で明るく、そして節度ある子どもたちの育成につなげていきたいと考えています。

## 水神公園清掃活動と3，4年生によるふるさと学習を実施しました

６月５日（月） 毎年恒例の水神公園清掃を行いました。縦割り班に分かれ、班長・副班長のリーダーシップのもと、斜面の落葉や枝などを一生懸命にかき集めました。約１時間の作業でしたが、見違えるほどきれいになり、子どもたちも教職員も達成感でいっぱいになりました。また、管理者の飯田様からも感謝のお言葉をいただき、ふるさと「おふく」のために役にたつことができた、と実感する時間となりました。

このように、地域のための活動のようで、実は、地域の方々に子どもたちを育ててもらっています。多くの人とのふれあいを通して、一緒に何かをしたり、感謝のお言葉やアドバイスなどをいただいたりして、子どもたちは大きく成長します。今後もたくさんの方々とのふれあいの場を作っていきたいと思っています。ご褒美にいただいた作業後のラムネやジュースの味は格別でした。

その後、3，4年生が残り、飯田様に水神公園の歴史や自然、流しそうめんについてたくさんの質問をしました。帰校後は、学習したことをスライドにまとめ、7日（水）に実施した、「平生町立佐賀小学校」とのオンライン学習にて、わかったことを伝えました。お互いのふるさとについて紹介しあうことで、学びも深まりました。

# 8月行事予定　　生活目標　暑さに負けず規則正しい生活をしよう

| 日 | 曜 | 学　校　行　事 | 下校時刻 | 日 | 曜 | 学　校　行　事 | 下校時刻 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 火 | | | 17 | 木 | 学校運営協議会②ゆめみネット協議会②小中一貫研修会② | |
| 2 | 水 | SC来校 | | 18 | 金 | | |
| 3 | 木 | | | 19 | 土 | 週休日 | |
| 4 | 金 | 学校・地域連携カリキュラム検証プロジェクト会議① | | 20 | 日 | 週休日 | |
| 5 | 土 | 週休日 | | 21 | 月 | | |
| 6 | 日 | 週休日 | | 22 | 火 | | |
| 7 | 月 | | | 23 | 水 | | |
| 8 | 火 | | | 24 | 木 | | |
| 9 | 水 | | | 25 | 金 | 始業式　給食開始 | 1～6年 13:10 一斉下校 |
| 10 | 木 | 学校閉庁日 | | 26 | 土 | 週休日 | |
| 11 | 金 | （祝）山の日 | | 27 | 日 | 週休日 | |
| 12 | 土 | 週休日 | | 28 | 月 | | 1～6年 13:10 一斉下校 |
| 13 | 日 | 週休日 | | 29 | 火 | おふくの日②　夏休み作品展（～8/31） | 1～6年 13:10 一斉下校 |
| 14 | 月 | 学校閉庁日 | | 30 | 水 | | 1～6年 13:10 一斉下校 |
| 15 | 火 | 学校閉庁日 | | 31 | 木 | | 1～6年 13:10 一斉下校 |
| 16 | 水 | 学校閉庁日 | | | | | |

## 教えることで学びを深め、先輩から習ってできることを増やす
## ～　おふかっぱ算数での学びの素晴らしさ　～

６月号で紹介した「おふかっぱの日」の「おふかっぱ算数」について、児童の素晴らしい姿が見られています。そこで、この学習のよさ（学びの価値）について、少し詳しくご紹介します。

この算数の時間は、各自で自習しながら分からないことやつまずいていることを教え合って学習を進めています。教えるのは高学年が多いですが、下の学年に教えるには、「やり方」だけではなく、「なぜ、そのやり方なのか」という意味の理解が必要です。したがって教えることは自分の学びを振り返り、深めることになります。教育科学の研究でも学びの定着率がもっとも高いのは「教える」とう学習活動であることが証明されています。

一方、先輩に教えてもらう児童は「どこが分からないのか」「なぜ、そうなるのか」などを尋ねながら学習しています。つまり、対話による学習が成立しています。しかも、先輩とはいえ、子ども同士なので分かるまで繰り返し尋ねることができます。教える先輩は、後輩が繰り返す質問にイライラせずに「例えば～」と具体的に丁寧に対応している姿が増えてきました。

於福小の良き伝統「おふかっぱ算数」での学びが、さらに深まるように支援していきたいと考えています。

自分のペースで学習

意味を考えて具体的にヒント

教員も個別に指導